



池戸一成 後援会 会報

しぶがき通信

秋 号

発行日：令和 3 年 1 0 月

発行者：池戸一成後援会事務所

各務原市蘇原柿沢町 1-15

TEL：371-2749

HP：http://ikedo.info/

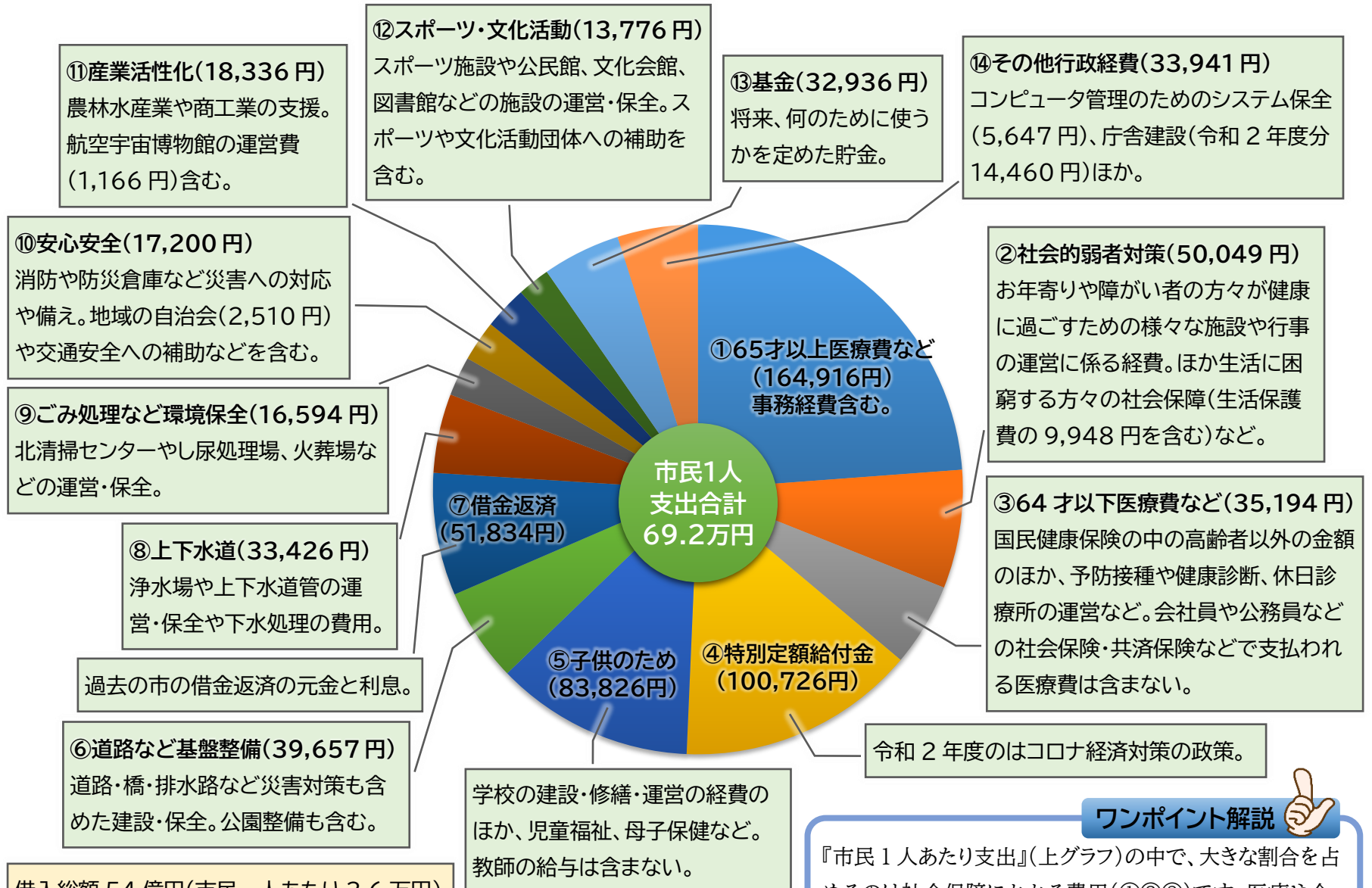


「何に、誰に、いくら使われたか」を考える ～令和 2 年度 各務原市の決算～

令和 2 年度の各務原市の 6 つの会計(※1)の決算を一つにまとめて、市全体で「何に、誰に、いくら使ったのか」をわかるようにしました。総額は約 1,017 億円となり、金額が大きくてピンとこないの、人口で割算した『市民 1 人あたりの金額』を計算して、イメージしやすくしてあります。

なおこれらの集計金額は、繰入金や減価償却費などの実際には費用を伴わない項目を省いて、独自の方法で集計していますので、市の発表とは金額が違ってきます。※このページの()内の金額はすべて『市民 1 人あたりの金額』です。

(※1)6 つの会計とは、『一般会計』、『国民保険』、『介護保険』、『後期医療保険』、『水道』、『下水道』の各会計のこと。



ワンポイント解説

『市民 1 人あたり支出』(上グラフ)の中で、大きな割合を占めるのは社会保障にかかる費用(①②③)です。医療や介護、生活保護などの総額は 367 億円(市民 1 人あたり 25 万円)で、現在建設中の市庁舎が、毎年 4 つ建てることのできる費用に相当します。『社会保障の充実』と『負担のあり方』のバランスが大切です。

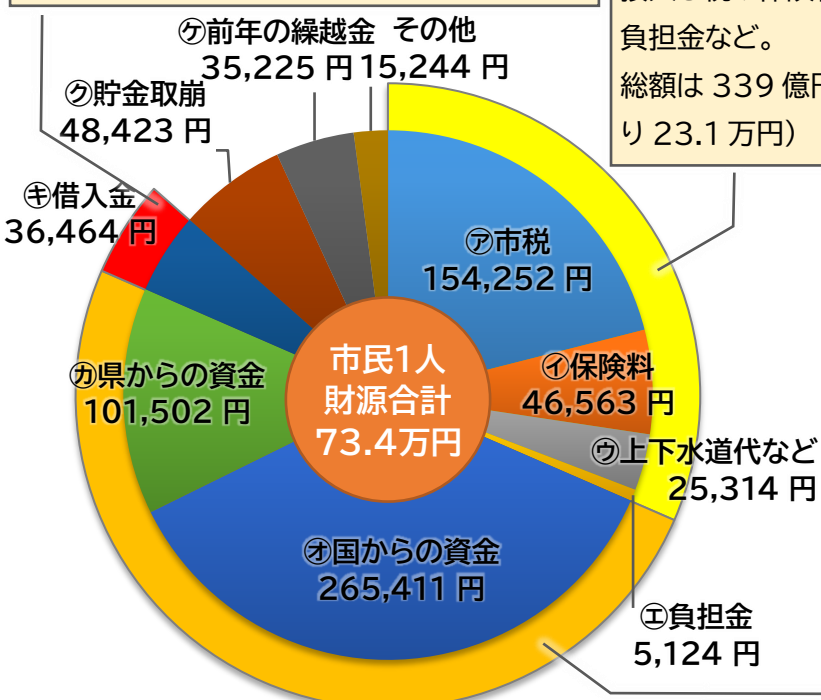
ワンポイント解説

市の財源の半分近くは、国や県からの『交付金』や『補助金』などになります。市民 1 人あたりの『支出』(上グラフ)と『財源』(下グラフ)を比べると、

- ◆ 財源の『④国保など保険料』より、支出の『①③医療費』が大幅に多い。
- ◆ 財源の『⑨上下水道代』より、支出の『⑧上下水道にかかる経費』が多い。

などが見て取れますが、足りない分は『市民税など税金』や『国・県からの資金』で補っていることになります。

借入総額 54 億円(市民一人あたり 3.6 万円)
このうち 29 億円分が、返済額を『交付税』として国が負担する制度になっている。



市民や市内事業所などから市に直接入る税や保険料、上下水道代、負担金など。
総額は 339 億円(市民一人あたり 23.1 万円)

国・県などからの資金。総額は 539 億円(市民一人あたり 36.7 万円)
この財源のうち、国や県の税金分は現代の市民(国民)が負担し、国債などで賄われている分は将来の世代の市民(国民)が負担することになる。

各務原市民公園リニューアルに向けて

市民公園は中心市街地に位置しながら、6.5haの広大な面積を有する各務原市を代表する公園のひとつで、週末ともなると市内外から利用者が訪れ様々な年代の方々が賑わっています。



現在の市民公園

一方、開園から30年以上経過していることから、遊具やトイレの老朽化、植え込み花壇や園内のタイルの破損や汚れ、外周園路の不陸などが目立ちます。この外周園路でランニングやウォーキングをされている多くの方々からは、不陸整正を求める声も届いています。

このような中、リニューアルの基本計画が策定され、「歴史・時間をつなぐ」、「風景をつなぐ」、「人をつなぐ」という3つの「つなぐ」を軸とし、公園という場を通じて人と人がつながり、過去から未来へ市民公園の魅力的な姿をつないでいくような「子どもに見せたい風景のある公園」を目指していくことになりました。ユニバーサルデザインを取り入れたトイレや、そよ風を感じる図書館のテラス、わくわくして遊び続けたいくなる遊具、居心地の良いベンチなどを整備するとともに視線の妨げとなっている樹木は下枝の剪定し見通しを良くしていきます。また、商用利用を念頭に置いたエリアやキッチンカーなどに対応したスペースも確保します。

今後のスケジュールについては、新型コロナウイルスなど社会情勢の変化を見極め、事業規模を精査の上、適切な時期に実施していくこととなりますので、随時地元の皆さんには正しい情報を伝えてまいります。

記事担当：津田忠孝

ろっけん通りの歩道整備 そして次のステップ

蘇原中央通り(通称：ろっけん通り)の歩道のリニューアルが始まっています。令和2年にいちよう通り交差点から工事がスタートし、令和4年度まででJR高山線踏切までの区間が完成予定です。

この道路における次のステップは、『JR高山線踏切の拡幅』になります。この踏切は車の通行量が多い中、通学路でもあり、六軒駅へ利用者や児童生徒の通学で多くの歩行者が通ります。しかしながら、この踏切はとても狭く、地域住民の中では、長きにわたって危険である認識がありました。

踏切の拡幅は、鉄道事業者が行いますが、かかる費用は市道であれば市が負担します。その上、「踏切の幅が広くなると鉄道事故の可能性が高くなる・・・」と考える鉄道事業者の合意が必要で、粘り強い交渉も必要となります。

市は既にこの踏切拡幅について、JRとの話し合いをスタートしています。今後もし引き続き、地元自治会と連携して、要望を重ねてまいります。



朝の JR 高山線踏切



スポ広通りの歩道

スポーツ広場への歩道が狭く、たびたび自転車での転倒事故が起きています。

この道路は、自動車の交通量も多く、自転車が車道を走るのが危険で、対策が求められています。

近隣の工業団地の建設工事と合わせた対策を講ずるよう要望を続けてまいります。

記事担当：池戸一成

新特別支援学校建設と地域

鵜沼市民サービスセンター北側に特別支援学校の建設が予定されています。学校は、全ての子どもたちが、安心、安全、そして健やかに学び成長できる場であり、同時に、地域の様々な活動の拠点でもあります。新たにできる特別支援学校もその一翼を担うものであり、地域における関わりが切り離せないものと考えています。

既に特別支援学校の建設予定地の近隣地域においては、地区社協が「特別支援学校を知ろう」をテーマに勉強会を開催したり、パークレンジャーが里山である八木山三山の山道を整備して、特別支援学校のカリキュラムで活用してもらえるよう活動したり、児童・生徒の皆さんの通学が安全であることを地域で協議したりして、特別支援学校建設を見据えた取り組みが進んでいます。今回の特別支援学校の建設に限らず、このような地域の関わりはとても重要であり、未来永劫続いていかなければなりません。

しかしながら、これら地域の関わりを支える活動を行っている主たるメンバーは、仕事を勇退された高齢の方々がほとんどであることが現状であり、人口減少や高齢化が進む中で、地域の関わり活動を継承する方が少ないのが現状です。



地域の支え合い活動の一例
愛宕山登山道の階段補修

地域の高齢化や人口減少の課題は、地域によってだけでなく、行政、地域の企業、そして議会も積極的に取り組んで行かなければならないと考えています。今後も、『地域の活力』をテーマに、皆さんと共に考え取り組んでいきたいと思っています。

記事担当：大竹大輔

川島大橋の早期復旧 稲羽川島の道路網実現へ

木曽川にかかる川島大橋が5月28日から通行止になり、笠田町や稲羽地区から川島地区や愛知県方面へのアクセスが途切れています。橋の交通量は1日1万台ほどあり、多くの方が迂回をしていることになります。

5月の豪雨により川島大橋の橋脚周辺部の川底がえぐられる「洗堀」が起き、P4橋脚の沈下・傾斜が進行したため、県が橋の通行が危険と判断し、通行止となりました。

これまで橋を渡って通学していた笠田町の児童生徒にとって、迂回により通学路がかなり遠くなるため、市は週明けの5月31日からバスとタクシーを提供し、子供たちの安心安全な通学の足をスピード感持って確保しました。

県は、川底が削り取られないように橋脚を固定する緊急対策工事を行うために、川の流れを変える「瀬替」をおこない橋脚の安定をすすめました。



ヘリを使った
川島大橋の緊急工事

本格復旧には技術的に困難な工事が見込まれるため、国の権限代行制度を活用した早期復旧を県と市は要望し、国は事業代行により本復旧を県と連携して工事を進めていくことを9月3日に発表しました。

- ◆ まずは、被災した橋梁の撤去
- ◆ 通学路を確保するための歩行者用の仮橋の設置
- ◆ 本復旧のための橋梁工事の実施

橋の復旧による、稲羽地区から川島地区や愛知県への広域幹線道路ネットワークの完成を目指して国や県へ要望してまいります。

記事担当：岩田紀正